

令和 6 年 12 月の解説（週間天気予報）

【12 月の天候状況】

上旬は、期間のはじめは全国的に高気圧に覆われたが、3 日に低気圧が日本の北を通過した後は東日本を中心に西高東低の冬型の気圧配置が続いた。このため、旬降水量は東・西日本太平洋側と西日本日本海側でかなり少なく、北日本太平洋側で少なかった。一方、東日本日本海側で多く、大雨となった所もあった。旬間日照時間は北・東・西日本太平洋側でかなり多く、西日本日本海側と沖縄・奄美で多かった一方、東日本日本海側で少なかった。全国的に期間の前半は寒気の影響を受けにくかった一方、期間の後半は寒気の影響を受けやすかったため、旬平均気温は全国で平年並だった。

中旬は、アリューシャン低気圧が強く、シベリア高気圧が東シナ海に張り出して冬型の気圧配置が続きやすく、太平洋側では低気圧の影響を受けにくかった。北日本を中心に全国的に寒気の影響を受けやすかったため、旬平均気温は全国で低かった。旬降水量は北日本太平洋側でかなり少なく、東・西日本太平洋側と沖縄・奄美で少なかった一方、北・東日本日本海側で多かった。旬降雪量は、北日本日本海側で多かった。旬間日照時間は北日本日本海側でかなり少なく、沖縄・奄美で少なかった一方、北日本太平洋側でかなり多く、東・西日本太平洋側で多かった。

下旬は、日本付近は冬型の気圧配置が続きやすく、旬降水量は東日本日本海側でかなり多く、北日本日本海側で多かった。旬降雪量は北日本日本海側で多かった。北日本日本海側と北日本太平洋側の山沿いでは、23 日頃には冬型の気圧配置が強まり記録的な降雪となった所があったほか、降雪が続き記録的な積雪となった所があった。また、旬間日照時間は東日本日本海側でかなり少なく、沖縄・奄美で少なかった。一方、低気圧の影響を受けにくかったため、旬降水量は北・東・西日本太平洋側、西日本日本海側、沖縄・奄美で少なかった。また、旬間日照時間は、北日本太平洋側で多かった。旬平均気温は、寒気の影響を受けやすかった北日本で低かった。

【12 月の検証結果】

「降水の有無」の全国平均の適中率(3～7 日目平均)は、例年値(注)よりも 5 ポイント高い 81%となった。地方別の適中率では、沖縄地方で例年値を下回ったほかは、すべての地方で例年値を上回った。最高気温の予報誤差(2～7 日目平均)は、全国平均で例年値よりも 0.6℃小さい 1.4℃で、すべての地方で例年値よりも小さくなった。また、最低気温の予報誤差(2～7 日目平均)は、全国平均で例年値よりも 0.5℃小さい 1.5℃で、すべての地方で例年値よりも小さくなった。

(注) 例年値は気象庁HP(予報精度検証)内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【2 月の週間天気予報の利用にあたって】

2 月は、1 月とともに 1 年で最も気温の低い時期で、厳しい寒さとなる日が多い時期です。低気圧が発達しながら通過して、低気圧の通過前後で気温が急上昇し、急下降するなど、一日の気温の変動が大きくなることもあります。厳しい寒さへの対策とともに、週間天気予報で気温変化の傾向を把握して、急激な気温変化に備えて健康管理などにも活用してください。